

## かみくげ 恐竜の里新聞

平成23年 8月25日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第37号

上久下  
地域づくり  
センター  
0795 78 0001化石発見5周年記念イベント  
新建屋落成式典と同時開催

丹波竜生誕5周年を記念したイベントが8月6日(土)元氣村かみくげで開催されました。記念イベント開始を前に、丹波市からの補助金750万円で建設した多目的展示施設と化石発掘専用棟の落成式を、丹波市長、市議会議長、県民局副局長や町内選出の市議らを招いて行われました。テープカットに続いて一般公募していた新施設愛称名も審査結果が発表され青田自治会の斎藤恭子さんに最優秀賞、優秀賞副賞が贈呈されました。

イベント会場となった駐車場は各自治会有志によるバザーなどに地域内外から300人を超す家族つれで賑わいました。なかでも、発電所記念館では初めての試みとして、かみくげコーラスグループによる「川代溪谷せせらぎ喫茶」に市長ら招待客の多くも来店し、大正時代の建築物の中で篠山川の溪流の音を聞きながらのケーキや飲み物のサービスに、独特の店内雰囲気を楽しんでいました。

今年の5周年記念イベントには読売新聞大阪本社の後援で子供たちを対象



とした夏休み自由研究が教育インストラクターらの指導で行われ、冷房のない施設内いっぱいのこどもたちも汗だくになっても熱心に取り組んでいました。これらの様子は同行していた読売新聞号外車から即刻発行の「号外」が会場に配られ、一層イベントを盛り上げていました。

参加した招待客の一人は「上久下の恐竜を活かしたまちづくり活動がどんどん進んでいることが確認できて喜ばしい。丹波市の中でもいい見本になることは間違いない」と感想を話してくれました。

## 平成たんば塾を開講



上久下自治協議会は7月28日から8月2日までの4日間、平成たんば塾「かみくげ」を地域づくりセンターで行いました。子どもたちの学びを地域の豊かな教育力で支援する「平成たんば塾かみくげ」には毎回4年生から6年生までの10人前後が参加し、地区ボランティアらによる教育指導によって夏休みの宿題や体験学習、読み方・話し方教室などを熱心に取り組んでいました。なかでも星空観察や絵本作家による読み聞かせ方教室では地域内外から講師を呼んでの指導に子どもたちは熱心に耳を傾けていました。(写真は星空観察と絵本作家、村上祐喜さんの講座から)

## 元氣村に巨大スイカ出現

元氣村に8月初め、重さ15キログラムの巨大スイカが持ち込まれ、買い物客

や化石発掘体験に訪れた人たちをびっくりさせていました。

巨大スイカを持ち込んだのは元氣村農野菜グループの森田衛輝さん(下滝)。ご夫婦で丹精こめて育てた大きなスイカを店頭に所せましと並べました。

「こんな大きなスイカは一般家庭の冷蔵庫には入らないし、どうするんでしょうかね?」と買い物客は目を丸めていました。さて、一体誰が購入したでしょう?



## ◆報告とお礼◆

化石発見5周年イベントで元氣村多目的展示施設名で最優秀賞を獲得され、副賞に丹波のコシヒカリ30キロを贈呈された青田の斎藤恭子さんから「どなたかにプレゼントしてほしい」と事務局に申し出があり、協議の結果、上久下ボランティアグループに福祉活動の中で活用してもらうことになりました。斎藤さんのご厚意に感謝いたします。(イベント事務局)

## 9月の予定

- ◆9月4日 体育祭実行委員会 地域づくりセンター午後8時
- ◆9月10日 里づくり協議会例会 午後7時30分
- ◆9月18日 体育祭 上久下小学校

## 篠場チヨコ物語

ほとんど全員が初心者という陶芸教室が篠場で開かれました。この教室は、一ターンの篠場に定年退職後住まわれている坂野(ばんの)さんの遊遊庵(ゆううあん)で開かれたもので、集落の大部分の住民が参加して行われました。

指導する坂野さんの陶芸歴は学生時代からと長く、転勤のたびに近くの窯元を訪ねて勉強してこられ、陶芸作家として活躍されています。

今回の教室は、今年秋に収穫予定のささばソバを自分の器で食べようと、篠場の赤土50%以上を含む粘土と、地元杉、桧の灰を釉薬として使用した「蕎麦猪口(そばちょこ)」すなわち「篠場チヨコ」づくりに挑戦しました。

土を練り、「たたら」という技法で形を作り、素焼き後に好みの釉薬を掛けていきますが、あちこちで「あっ!」「しまった!」という声が聞こえてきます。それでも皆さん満足そうに、陶芸窯に入れてその完成を楽しみに待ちました。

その出来栄えという、思い通りにできた人、想像以上に立派にできて大喜びの人、またその逆の人も・・・?

普段より遊遊庵は、坂野さんご夫妻の人柄から、ふらっと立ち寄るとほっとする、篠場の「ほっとスポット」なのです。小さな集落でも、みなで話をする機会が少なくなっています。今回の「陶芸教室」では、家族のこと、健康のこと、



田んぼのこと、地域のことなどさまざまな話題について、話をするよい機会になりました。

陶芸の面白さを実感し、大変楽しい時間を過ごし、そして、また陶芸の奥深さを思い知ることもありました。

陶芸に興味のある方は、ぜひ「遊遊庵」を訪ねてみてください。

連絡先 0795・78・0551

(レポーター:村上孝三)

## 自治会夏のトピックス

### 北太田ラジオ体操

今年の夏の北太田の里でのすばらしい出来事をご紹介しましょう。北太田自治会内でただ一人となつた上久下小学校児童の呼び掛けで朝のラジオ体操に常時30人以上の自治会員らが参加するようになり、集落内の輪が広がり、より強い絆が生まれてきました。



ラジオ体操への呼び掛けをしたのは3年生の竹内亜央(あみ)さんで、自分で作ったチラシを各戸に配布したり、夏休み前日には有線放送で「私と一緒に朝のラジオ体操をしてください」と呼び掛けました。チラシや放送で感動した幼児から高齢者まで、毎回30人以上が集まり、亜央さんを囲んで、音楽に合わせ体を動かし、すがすがしい毎朝を迎えています。

(レポーター 若森五郎さん)

### 青田一川裾まつり

7月30日、大蔵神社広場で川裾まつりを100人ほどが参加して行なわれました。部落内半分の3組が毎年交代で出店する飲食店舗から立ち上る香り高い風味の傍で、やぐらを囲んで多くの会

員が踊りの輪をつくり夏のひと時を楽しんでいました。

### 阿草一花火大会

7月30日、自治会公民館活動として花火大会を開催し、100発の花火が大音響とともに夜空のキャンバスに色とりどりの絵模様を描いていました。5、6年前から川裾まつりに行われ地元住民のみならず、近隣部落や県道77号の通行車からの見物客らも夏の風物詩を満喫していました。

### 下滝一感動の再会

西垣菊枝さんがNHKアナウンサー村上信夫氏の突然の訪問に大感激されていました。3月末に地藏茶屋を引退されて自宅でゆったり過ごされていた菊枝さん(94歳)は夏休みを利用して丹波に帰ってこられた信夫さんと地域づくりセンターで再会しました。菊枝さん引退時に4人の子どもさんからももらった表彰状などを見せながら楽しく歓談されていました。菊枝さんご家族の心な

ごむ話に熱心に耳を傾けていた信夫さんは

「優しいみなさんに囲まれてます

ます元気で長生きしてください」

とエールを送っていました。

